

# 音喜多 古剣（おときた・こけん）

## 1、プロフィール

考古学者として、また、剣道の達人として知られる音喜多古剣は、俳句を北村古心に学び、後に自ら俳誌「寒潮」を創刊、若手俳人たちを育てた。『八戸季寄せ』などの著書もある。

<生没>

1905(明治 38)年1月5日 ～ 1975(昭和 50)年8月 26 日

<代表作>

『古剣句集』『八戸季寄せ』『音喜多富寿随想集』

<青森との関わり>

法政大学卒業後、八戸水産高校、八戸商業高校に勤務。郷土の遺跡発掘を手掛け、その功績により県文化賞を受賞した。

## 2、作家解説

音喜多古剣(本名富寿)は、明治 38 年1月5日、音喜多政治、リエの長男として誕生した。父政治は、明治 41 年に八戸町(現八戸市)二十八日町に医院を開業したが、古剣が5歳の時に、当時八戸界隈で流行していた腸チフスの診療中に罹患し死亡した。古剣は、大正6年4月に県立八戸中学入学、4年次に東京の荏原中学に編入、大正 12 年4月法政大学予科入学、同 15 年4月には法政大学経済学部に入學し昭和4年3月に卒業した。大学で剣道部の主将を務めるなど剣道に明け暮れた青春時代を過ごした。

昭和6年4月、青森県立水産学校(現八戸水産高校)に勤務した古剣は、同校の書記で旧派俳諧の宗匠四戸梅遊に勧められて句作、百仙洞古心(北村益)に入門し百鍊舎古剣の雅号を授かった。なお、古心からは八戸藩伝神道無念流居合の道統の伝授も受け、文武両道の師として仰ぐことになる。昭和 10 年9月に自然木社から『古剣句集』を刊行、昭和 16 年4月には水産学校の生徒や同窓生

たちと第一次「寒潮」を創刊した。戦後第二次「寒潮」を発刊、昭和 26 年1月の「寒潮」10 周年記念号でもって廃刊となるが、古剣は「八戸季寄せ」「南部藩俳人列伝」などを連載し、地方俳壇の開発に心意を傾けた。その後、八戸俳壇は転変を重ね、やがて八戸俳句会の設立、そして昭和 34 年1月の「北鈴」創刊となるが、古剣は常に指導的立場にあり、後進の育成に当たってきた。

昭和 31 年4月から八戸商業高校の校長を務め、40 年3月に退職、同年東奥賞、42 年には青森県文化賞、45 年には文化庁長官賞を受賞したが、これは長年にわたる考古学研究の業績によるものである。「晩秋の日の色粗らく土器のひび」「土器竝みて日の色吸へり土の秋」などの句は、まさに古剣ならではのものである。

昭和 50 年8月 28 日、入院先の青森労災病院で亡くなった。行年 70 歳。病床ノートに残された「生涯の冷汗拭い衣更」が辞世となった。

### 3、資料紹介

#### ○『八戸季寄せ』

図書

1950(昭和 25)年3月5日

125mm × 180mm

地方固有の歳時記的社会現象や事物が、地方的であるがゆえになおざりにされていることに危機感を覚え、八戸地方の季語の掘り出しを行い俳誌「寒潮」に連載、それをまとめて寒潮社から出版したものである。小井川潤次郎が校閲し、百仙洞古心が序文を寄せている。